

スイス映画の史的展望<1941~1979>

フィルムセンターでは、毎年の行事の一環として海外諸国の協力を得ての外国映画特集上映を実施し、映画による国際文化交流の一翼を担ってきました。

本年度は、1960年の後半から目覚ましい製作活動を見せて世界の映画界の注目を集めているスイス映画を広く紹介することによって、日本とスイス両国の親善と理解に寄与したいと念願し、スイス大使館、プロ・エルヴェシア、シネマテーク・スイスの多大なご協力を得て、「スイス映画の史的展望」を開催することとしました。

これまでわが国で一般公開されたスイス映画は、「ジープの四人」「ハイジ」など数本にすぎず、一般にスイス映画に対する関心と理解を残念ながら高いとは申せません。しかし、スイス映画界は、連邦政府によって制定され、1963年から発効した映画助成法により、1960年代の終り頃から1970年代にかけて、アラン・タネール、ク

ロード・ゴレッタらに代表される若い世代の優れた映画作家たちの輩出をみ、単に風光明媚なスイスの大自然を採り入れるだけでなく、現代に生きるスイス人の考え方や現在のスイスの社会に内包されている問題点をも映像表現しようとする数々の秀作を世に問い、国際的にも大きく評価されております。

今回上映される特集番組は、第2次大戦中の1941年から79年までの間に製作された作品の中から選ばれたスイス映画史上の代表作ともいえる12本の長篇劇映画と、12本の短篇アニメーション映画で構成されております。スイス映画史を鳥瞰すると共に、スイスの風土・文化と国民性を把握する絶好の機会を提供するものと思われまますので、単にスイス映画の研究家のみならず、広く映画愛好家の皆様の御鑑賞をお勧めいたします。

1981年3月 フィルムセンター

* 全作品英語字幕付で、日本語字幕は付いておりません。 * 各番組で1本づつ短篇アニメを上映の予定。

* 日曜・祝日は休館。午後3時・6時15分の2回上映（開館は12時30分で、先着順にて定員239名に達し次第締め切ります）。

一般200円・学生140円・小人100円

期 日	題 名	製作年	監 督	出 演 者
3月10日(火)	招待 (100分)	1973年	クロード・ゴレッタ	ジャン＝リュック・ビドー、ジャン・シャンピオン、ミシェル・ロバン 1973年カンヌ国際映画祭審査員賞受賞。
11日(水)	村のロメオとジュリエット (82分)	1941年	ヴァレリアン・シュミデリ ハンス・トロマー	マルギット・ヴィンター、エルヴィン・コールンド、ヨハネス・シュタイナー スイスの作家ゴットフリート・ケラーの小説の映画化作品。
12日(木)	最後のチャンス (109分)	1945年	レオポルド・リンドベルク	エヴァルト・G・モリソン、ジョン・ホイ、レイ・リーガン 1946年カンヌ国際映画祭U. D. I. 賞受賞。
13日(金)	作男ウリ (109分)	1954年	フランツ・シュニデル	ハネス・シュミドハウザー、リゼロッテ・プルファー、ハインリヒ・グ्रेトラー イェレミアス・ゴットヘルフの小説を原作とする《ウリ》シリーズの第一作。
14日(土)	パン屋ツェラー (106分)	1957年	クルト・フルー	ウルスラ・コップ、ペーター・プログレ、マルギット・ヴィンター 『ジープの四人』でリンドベルクの助監督をつとめたフルーの出世作。
16日(月)	どうなってもシャルル (94分)	1969年	アラン・タネール	フランソワ・シモン、マルセル・ロベール、マリー・クレール・デュフル 1968年カンヌ国際映画祭参加作品。
17日(火)	測量師たち (80分)	1972年	ミシェル・ステール	マリー・デュボワ、ジャン＝リュック・ビドー、ジャック・ドニス 1972年カンヌ国際映画祭参加作品。
18日(水)	ラ・パロマ (110分)	1974年	ダニエル・シェミド	イングリド・カーヴェン、ペーター・カーン、ビュル・オジエ 1974年カンヌ、ベルリン、ロカルノ国際映画祭参加作品。
19日(木)	雇われ者 (125分)	1976年	トーマス・ケルフェール	ポール・ビュリアン・フェレナ・ブス、インゴルド・ヴィルデナウアー 1976年カンヌ国際映画祭参加作品。
20日(金)	インディアンはまだ遠くにいる (97分)	〃	パトリシア・モラ	イザベル・ユベール、クリスティーン・バスカル、マシュー・カリエール 1977年カンヌ、ベルリン、ロカルノ国際映画祭参加作品。
23日(月)	グラウツォーネ (99分)	1978年	フレディ・M・ミュレル	ジョヴァンニ・フリュー、オルガ・ピアッツァ、ユルゲン・ブリュッガー ゴダールの『アルファヴィル』を連想させる空想映画の話題作。
24日(火)	遁 走 (138分)	1979年	イヴ・イェルサン	ミシェル・ロバン、ファビエンヌ・バロー、フレド・ベルソンヌ。 スイスの農家にもみられる老人と農村の問題点を描く農村ドラマ。